（十九日夕刊）

磐城新聞

休刊（大祭第一第三日曜）
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（二行五十錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

# 小さき佛の子と語る

コマ澤　森本妙諦

「歎異鈔」を讀んだ人で、左の一文に行當る誰でも、徹底した親鸞の仰に打たれずにはゐないだらう。私の親鸞（眞宗としてゞなしに人としての）を尊崇するに至つた動機は、この告白が與へくれるものであつた。それを讀むいつでも偉大あると共に纖麗にある情美は極つて私を陶醉させてしまう。

——親鸞におきては、たゞ念佛して彌陀に助けられ參らすべしとよき人の仰を蒙りて信ずる外に別の仔細なきなり。念佛はまことに淨土に生るゝたねにてやはんべるらん。また地獄に墮つる業にてやはんべるらん。總じもて存知せざるなり。たとひ法然上人にすかされ參らせて、念佛して地獄に墮ちたりとも、さらに後悔すべからず候。その故は自餘の行を勵みて佛になるべかりける身が、念佛を拜して地獄に墮ちて候はゞこそ、すかされ奉りてといふ後悔も候はめ、いづれの行も及び難き身なればとても地獄は一定ぞかし。彌陀の本願まことにましまさば釋尊の說教そらごとなるべからず。佛說まことおはしまさば善導の御釋そらごとしたまふべからず、善導の御釋まことならば活然の仰そらごとならんや。法然の仰まことならば、親らんの申す旨またもて空しかるべからず候歟、詮ずる所、愚身が信心にたきてはかくの如し。この上は念佛をとりて信じ奉らんとも、また棄てんとも、面々のたはからひなりと云々。……

信仰はかくてこそ、クライマックスであるべきである。かく信ずる者の前に權勢や富貴やは幾何の力でもないであらう。皆にも思ひ起す、ガーヤ山上に端座したゴータマシッダルタに當面しては、ビシユーナの惱殺も魔女達の肉體も一徹の反應さへ買ひ得なかつたではないか。親鸞の信仰はまさに金剛の如きものであつた。

即ち親鸞は念佛して彌陀に助けられよと法然がいふから、信ずるまでゞあつて念佛することが淨土に生れる善業であるか、地獄に墮つる惡業であるかは考へも見ないのであつて、たとひ念佛したゝめに地獄に墮ちたとて法然に誑かされたとに思はないといふのである。如何なる行を積めばとて及び難い凡夫であるから必定地獄に墮ちるならば念佛して地獄に墮ちたとて何の後悔があらう。併し乍ら彌陀の本願を說いた佛陀は虛言をいつてはゐない筈だ然らばこれを釋いた善導にも虛言はあるべきでなくその善導に基いた法然にも亦虛言のあらう筈がない法然に虛言がないならば、親らんのいふ所にも虛言のないのは當然であらうとのこの告白は直截味はふべきかん言である。

親らんのしたこの心行は佛教信者にとつて同じ信念の行持でなければならない。今更親らんのかん言を以てその信仰を訴へるほど新しいとする提示ではないのであつて、既にこの確固不拔に住してゐなければならぬものである。この持念は如何なる態樣を以て我々の信仰に現るべきであらうか一に佛陀に捧げる恭敬である。我々のする讃佛行も佛讃恭敬の營みが渾和融合した妙境に住してこそ親らんの心行その儘の信念固持か、我々の信仰生活に現實すべきである。

## 明日の吉凶

舊暦一月十一日　新暦二月二十日

▲一白　多少の支障はあれども其に屈せず進むべし▲二黑　步調を亂さず自重して進むときは吉日と成る▲三碧　吉と思ひし事も急に變化を生じ來る注意日▲四綠　初めの元氣永續せず次第に緩み勝の日たり▲五黃　輕々しく人の口先に乗らず自信を守るべし▲六白　柔弱の風を生じ得る事も果し得ざる日▲七赤　浮世の波はあれど圓滿を主とすれば發展す▲八白　志を大切に守り氣を他に散らさぬ樣にすべし▲九紫　短氣を起すときは成るべき事も破れを來す

## 濱三郡局長會

濱三郡三等郵便局長會議は十四日午前十一時より浪江町百足屋旅館に於て開會貯金、保險、年金等の募集事務につき協議をなした

## 講談　幕末紅怨記

(163)　渡邊默禪作　宮野歌春畫

「兄さん、ざ、ざ、殘念でございますッ」

やゝあつて雪枝は稍と是だけの聲が出た

「む、ざ、殘念だッ」

勘太郎も同じやうな事を言つた。互ひに頰を傳はる雫に其の理由を語らせて

「あ、餘りでございます、母さまや富松の仕打が、……兄さん、私し、お察し申しますわ」としやくり上げた

「なアに、彼奴だちは人間ぢやアない、ち、畜生だッ」

濡ひを帶びた眼がぎらりと光る。

「お雪、今日はお前一人か」

「はい、女中と一緒に參りましたのでございますが、茶屋に待たせて置いて私し一人でお墓へ……」

「む、そうか、ちやア外に誰も居ないな」

「はい、一体ならば切めて一七日の間皆なが揃つてお詣りをしなくちやアならないでせうに、母さまも富松も忙がしいとか申して參りませんから、私し一人だけが欠かさずお父さまへ！」

後は泣聲に消えて了つた

「だん〳〵地金が出るのだ却つて來てくれない方が、お父さまのお喜びだらうよアハヽヽ」と淋しく笑つたが

「お雪、跡はどうなつた」

「はい、その事に就ていろ〳〵お話し申さなければならぬことがあるのでございます、兄さん、母さまにね」

「む」

「赤子さんがお出來なすつてらつしやるそうですよ」

「何、子供が？」

「お父さまのお胤で五月ださうでございます」

勘太郎は眼を圓くした。息も吐かず口をもぐ〳〵させて

恰ど其處へ行安寺の所化で道了といふのが來た。何か墓地で調べる事でもあるのか、うろと徘徊してゐたが、仕切垣の外から此の有樣を見てどう思つたものか俄かに影を忍ばせた。而してはうやうに垣根を傳はつて二人の近くに寄つてその談話に耳を澄ませた。さも知らぬ兄妹は半刻許も密々聲で語り合つた。親族會議のあつた事やら、越前屋と近江屋の爭論、結局遺言狀どほりに落着したこと、其後お蔦がつけ〳〵と自分に當り散らして邪けんな折かんをするので、朝夕袖を濡らしてゐることを雪江が語ると、勘太郎は又た勘當されてからの苦心、お君が身を犧牲にして貢をつくしたこと、藝妓になつて其の金を貢いで呉れたこと、丁稚清吉の話で家庭の秘密を親ひ知つたこと、店先から追返されたのは凡て二人の差圖であること、越前屋への手紙を證據に取つてあること、確かに二人が密通して財産を横領しようといふ陰謀を企てゝゐるに相違なきこと、その遺言狀も疑はしく、或ひは狂言であるかも知れぬといふこと、それらを取纏めて、口惜涙の下から物語るのであつた。

雪江は流石に處女である家庭に遠かつてもそうも長い間の屋敷奉公、一切外が空氣に觸れない世間不見である。それゆゑ繼母根性から邪けんなことは此頃來經驗してゐても、眞逆それ程までに人情といふ物が陰險で且つ慘酷であるとは思はなかつた。で最初は兄の言ふことも恐らく邪推であらうと聞いてゐたのであるが段々說明されて漸と信ずるやうになると共に、餘りのことにぞつと身ぶるひした。

# 讀者欄

## 映畫と大衆

西村　勉

映畫の價値的使命は常に大衆の上におかねばならない。かつて映畫は一人の科學者の手によつて造りあげられ、大衆の上に送られた。それから映畫は映畫製作者と大衆との間に次第に生長して行つた。或時大衆の生活は映畫を造り、或時映畫製作者は科學的な腦に依り[illegible]的な事象[illegible]大衆に[illegible]大衆の生活に一段の進化を與へた。しかるに今や映畫の生命は藝術の上に移り、映畫製作者の使命は明日の映畫にあるやうになつた。今やえゝ畫は敢然大衆指導の上に立つてゐた。だからこそ一大對照たるべき大衆はどうであつたか。藝術も亦大衆なしには考へ得らるべき笑はない、而して大衆が藝術を支持すべきか藝術が大衆を支配すべきは亦セン明付けらるべき問題であらうと思ふ。

技術は往々にして專門的におちいりやすい、專門的技術は亦自我のものである、自我の深かからしめたものは個性である、個性はイゴイズムに歸し、イゴは遠く明日の事象を夢みる。えゝ畫製作者のもつえゝ畫的技術は今やえゝ畫的觀識を持つ一部の大衆と結合した。そしてそれはえゝ畫を深い深い藝術殿堂のなかにはいらしめ、高い高い科學塔に築かしめた。取り殘こされたのは一部をのぞいた雲霞のやうな大衆である。結局、吾々大衆はその立場からえゝ畫藝術のもつ不可解な發光体と科學塔に向つて射げきせねばならない、否一歩すゝんで破壞せねばならない。

そう破壞である、だがそれは破壞の爲の破壞であつてはならない、吾々の使命はダダではない、それは明らかに建設の爲の破壞でねばならぬ。而して來るべき行程はえゝ畫の爲のえゝ畫を！でなくして大衆の爲のえゝ畫！をである。

廣告

平町田町
高久病院
電話五一三番

痔の最高內服藥　ダイサン錠
鼻のクスリ　チクノール錠
平町五丁目角
山野邊藥局

主婦之友三秀會製品
新春の帯側陳列會
時、二月二十二日
所、弊店階上
銘仙　錦紗　モスリン　御召
御用命下さい
平町
三井呉服店

毛糸
防寒用には
丈夫で暖い
英國製毛糸
一オンス　十九錢　二十五錢
手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

安全第一
諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモツトートスル弊店ヲ精ニ御利用クダサイ
營業課目
勸業債券　復興債券　公債其他　兩替　金融
質物一般　取扱
多田井商店
平町大工町

內臓外科
骨關節外科　專門　藤本順
整形外科
產科
婦人科　院長　木村寅次郎
外科
婦人科
平町新川町
木村醫院
電話一六四番

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

夜間診療
胃腸
內科
十二指腸虫病
專門
內科部
梅毒
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部
平南町　松村病院　電話一七〇

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋
山崎合名會社
電話一〇番

磐城病院改稱
市原病院
平町田町（電話一一四番）
內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋毒　市原三三男

平町紺屋町
吉田眼科醫院

內科、小兒科（院長每日診療）
院長　醫學博士　難波睦
副院長　醫學士　五十嵐雄次
內科部長　中西林藏
外科一般
外科部長　醫學士　氏家憲介
每日手術　醫學博士　鈴木退輔
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長醫學士　五十嵐雄三
顧問　醫學博士　川添正道
×光線科
主任　醫學博士　難波睦
本院醫事法制囑託　法學士　岡番
本院主事　賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一衛生試驗所（共濟病院內）十一月一日ヨリ開始
一病氣相談所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
一救療所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
看護婦見習募集
磐城　共濟病院
平町電話六四一番

ホシ美白粉
ホシ美クリーム
ホシ美ローズ香水
星製藥株式會社
ホシ美水白粉
ホシ美煉白粉
ホシ美固煉白粉
ホシ美粉白粉

# 平町の新豫算は 總額七十萬圓

### 特別會計を含めて

## 廿四日町會召集

平町に於ける昭和四年度豫算は來る廿三日迄に編成完了を見込み翌廿四日町會招集の筈であるが新豫算額は大體經常部に於て廿二萬圓臨時部に於て第三小學校十二學級に講室新築費（附屬建物を併せて）約七萬圓これに伴ふ道路費及び南裏新街路繼續工事並に第一小學校未買收敷地一千八百坪の整理等を合して廿五萬圓此合計四十七萬圓外に特別會計の水道部では送水路方面の擴張改修に十六萬圓とで少くも廿三萬圓に達するを以て總計七十萬圓を減じ得まいと見られてゐる

## 勿來道路

### 十七日落成式

勿來町酒井にては窪田町より同町出藤大日本坑に通ずる村道を幅員擴張改修工事は豫約二千圓を以て部落民舊臘十二月下旬より本年一月末日を以て落成しその落成式を十七日午前九時より同村窪田淺吉宅に開催せられ餘興に煙火大神樂等ある

### 松の丸太で

## 頭を擊打

### 積込人夫死亡

石城郡好間村大字上好間古河炭礦長屋居住田村郡瀨川村大字新館字曲山生れ運搬夫菅野利造（三〇）は去る十二日午前二時頃夜番にて同坑石炭積込場で流板より貨車に石炭を積込み作業中石炭のくづれたはづみに上部より長さ六尺餘の松丸太が落下し同人の頭部に擊打を與へ轉倒し呻つてゐるのを通行人が發見手當を加へてゐたが十七日死亡したので平署七海部長檢死した

# 郡下の中小學校に 退學者が續出

### 生活疲弊の原因から

## 當局對策に腐心

平町に於ける現在の各鑛坑私立學校は數校に及ぶ縣立私立と共に縣下有數の地位にあるが昨今**男女各校**を通じて退學者の漸增したことは脅威に値するものあるが、同私立學校の如き、本年始業以來五十名の退學者を出し學校側に於ても是れが善後策に就て種々協議中であるが主なる原因は不況のため極度に疲弊した結果學徒の家庭に於ても學費に困難を來す者が到底將來教育をなし得る見込みなく中途退學をさせる外餘儀なき結果となつたのであらう、殊に中學校の如きは本年になつて二十餘名の**多數退學**者を出し、主に三四年の生徒に多く退學者は直ちに就職する傾向があり退學生は大農家庭に多く是等より察すれば將來教育上由々しき問題を惹起するものであると各學校當局は是が防止策に腐心中である

## ドシ〱殖ねて行く 石城地方の空家

### 現在調査で千三百戸

## 平署調べて驚く

平警察署が管內（平町外四ヶ村）に對し細密な家屋調査の結果この統計に現れた石城郡地方に於ける昨今の經濟狀態を觀測して見ると同署管內に於ける家屋は

官廳一二、公署一九、學校三一、內縣立二、公立二〇、私立九、病院縣立二、私立九、神社一四〇佛閣一二三、教會所六、公會堂二、倉庫三一四二普通家屋八四九三、その他二〇一三、合計一萬五千二百六十戸外に長屋物置その他が約一萬三千戸總計二萬八千十五戸に達してゐる

がこの內現在の空屋數は驚くなかれ一千二百九十八戸と言ふ膨大な數字を示してゐる即ちこれを前年に比較して見ると家屋數に於て僅一百戸內外（重に炭礦長屋の新築）の增加を見せてゐるのに對し空屋は實に五百餘戸の大激增ぶりで如何に經濟的不況の影響が深刻であるかゞ肯かれる

更らに此れを昨年末の戸口調査に依る管內の總人口十四萬一千四百卅二名を割當ると一戸平均約十人が住んでゐる計算であるが此ら不景氣の齎した一現象で平町を中心に間貸同居等が近來著しく激增した結果であらうと言はれてゐる

# 城山の閑人手記（上）

鐘樓近く　木村焦岳

平の二月といへば兎角から風の多いものと古來相場のきまつたやうな季節だがことしは客冬以來もはや二ケ月以上も少し　降雨さへ無い。僅かに春になつてから一回少量の雪を見たばかり、寒い〱と言ふのは皆同じだ。然し寒い時分に寒いのは順當だと云へば言はるゝが別してことしの寒さは必から腸に沁みわたるやうな感じがする。それは氣候の寒いばかりでもあるまいがな茶と深く近時の世相を考へ込めは込むほど、いよ〱料峭たる春寒を感ぜずには居られぬであらう

一日閑を得て平の町を歩いたが一體の商店はいかにも活氣に乏しい。今日此頃になつてまだ例々と年始贈答品大特賣などゝいふ立看板を其儘店側に掲げたものゝ際立つて目を惹くさへ二三に止まらない。機敏を貴ぶといふ商店でこの有樣ではいかに陰氣滿々を物語るものであらうか。夫につけても是等店主の顏色が思はる……倉拂いにつき大投賣などゝ筆太に記したのは、或は一の商略かも知れぬが兹にも中流以下の商店が、奈何に長い不景氣に疲れきつてゞあるかその焦悴さ惨々しさを窺はれる吾々自分　懷中ばかりが寒いから、町を歩いてこれ等のものゝ視線に入るたびに又一としほ水洟を啜つてゾッとする程寒さを感ぜずには居られぬ

或る商店の物品配達車が吾々の住む町に止まつた。ゾーシテお得意の番地と名前をしらべて近所で聞いて居る、ソノ傍へ最寄りの人と見ねて二三人佇立み乍ら話してゐる。恰度此配達車の上から誰の目にもつく商標の包裝紙で一部を蓋はれた座敷箒の一本が取下ろされた。彼等の言ふところは「デパアート式の便利さはかうした物さへ城山迄届けて呉れる。何れ他の買物の序でもあらうが一般の不雜貨店がこれぢや立行かない道理だ」と一人が呟いたのが不圖耳に入つた折柄鼻端を切らるゝやうな朔風一陣アパャ自分の帽子も持つて行かれさうになつた。惶慌て押へ乍らオ、寒いことだと太い溜息を漏らした。

或る金物屋に釘を買ひに往つた。店の者が何をさし上げますといふから五寸針を二十本程と輪搔金を呉れといふた、後から又一人婦女客が這入つて來た。これも五寸釘を買ひに來た。自分は鐵物屋の店の者に大分五寸釘が賣れるねえと云ふから、今買ひに來た女客が是を聞ゐてか、自分に對つてどうも近頃はホントに物騷で困ります、片閉りを嚴重にするには五寸釘を丈夫に指し込むのが一番可いものことを聞きましたから早速さうしてたかうかと思ひましてゞす」と馴々して話しかけられた。自分は何かコチラの肚裡を見透かされたやうな氣がして私もヤツパリその支度ですと互に微笑乍ら語つた……あたりの淋しい郊外生活者には亦尾期のついた猫どもが屋根うらを歩く音にさへ昨今は不氣味を感じて、宵から戸締りの釘さしが一と役となつた。隙間洩る風よりは昨夜もどこそこへと日々の新聞紙上で怪賊橫行の記事を見るたびまたかと肌に粟する樣な春寒を覺ゆられる。

### 石城郡下の

## 徵兵檢查

### 平町と植田で

石城郡に於ける本年度徵兵檢査は七月八日より十日まで植田町小學校で、同月十三日より二十一日まで平町元郡役所に於て執行の事に決定したが人員は植田檢査場が五百七人、平檢査場が一千四百五十六名で抽籤は八月二十四日と決定した

### 金毘羅參りの

## 乘降客

### 去年の約半分

平驛今朝ノ乘降客は湯本町金毘羅神社の例祭に參拜する善男善女の群で每年未曾有の雜踏を現せるが今年に限つてどうした譯かサッパリ人出が無い之れは昨夜の非常な寒氣とふきまくる風に幾分人出が澁つた樣だが濱通り一帶の漁民達の崇拜的となつてゐるだけ平常より約二倍の乘客があり昨年に比べれば約半分の乘客しか見なかつたがこれは平町附近から參拜客は大半自動車に便をかるため珍らしき輕減を見せたものである

# 來る町村議員選擧 定員移動の町村

### 植田、江名は十八名に

## 本郡下で三町村

石城郡下に於て來る四月中旬ころから行はれる町村會議員總選擧は町村制改正以來第一回の試みなのでその成績は注目に値するが議員の定數に異動を生ずる町村が相當に多い即ち從來人口一千五百人未滿の町村は議員定數八名であつたが改正の結果全部十二名となりました前回の總選擧後に人口に增減を來したものは議員定數に異動を生ずるわけで右人口は町村制施行規則第一條により內閣より官報をもつて公告した最近の人口によるをもつてこの度の選擧にたいて議員定數異動を生ずる町村は郡下於て左の如くである

| 町村名 | 從前 | 改正 |
|---|---|---|
| 植田町 | 一二 | 一八 |
| 江名町 | 一二 | 一八 |
| 川部村 | 一八 | 一二 |

## 竹細工組合會

石城郡南舊菊多郡竹細工商組合は昨年十月設立組合員の堅實なる團結により事業相當見るべきものあるが十六日午後一時より勿來町大字窪田里見屋旅館に春季總會を開き組合長高木丈助氏の開會の辭經過報告あり來賓勿來町議園部里次氏の祝辭あり新年宴會を催した

# 小名港の埋立工事 結局小野氏個人

### 町營とする財力がなく

## 町民の輿論一致

小名濱町小野晋平氏が小名濱築港の埋め立て出願から同町昭和會では右埋め立は町經營にて行ふべきであると大いに反對の氣勢を揚げ所謂議文と稱するものを突き付ける等、埋め立問題を中心に事態は政黨問題化さんとして成行を注目されて居たが築港四萬餘坪の埋め立を町に於て行ふとなれば少くとも三四十萬圓の巨額を要するので現在の小名濱町としては財政到底これを許さぬ實狀にあつて徒らに小野氏の事業を阻止するは町將來の爲めでないと云ふ事が全町民の輿論となつて現はれ理不盡な昭和會の言分に耳を藉すものなく結局小野晋平氏個人の事業として埋め立て工事を行ふことに大体決定した

### 所得税收益税

## 申告懇談

### 阿部課長出張

平税務署では來月十五日までに申告すべき營業收益税及第三種所得税の申告に關し納税者中疑義を有する向に對してはその日時場所等の申し出でに應じ阿部直税

# 御札を買はぬとて 遺恨晴らしの放火

### 旅人方面を徘徊して

## 犯人直ちに逮捕

石城郡田人村大字旅人綠川治助方南方に十五日午後十時頃何人かが放火したが家人が發見し消し留めたため大事に至らなかつたが植田署で犯人捜索中十五日午前九時頃前記火元隣家に魔除け札を賣りにきて拒絕された旅商人があつたので刑事は同人の行爲とにらみ十七日午後七時頃怪しの旅商人が川部地內を徘徊中取り押へた右は仙臺市二日町左官職高橋善七（三四）にして前記犯罪事實を自白した

### 平町春の

## 流行界

### モダン靴の巻

モボ、モガが增加るに比例して形の變つたモダン靴も流行を追つて現はれてきた……春の流行靴は色々を平町大塚運動具店に開けば一般に若向きな赤アミアゲが一番賣れるが形はノーブルゴルフ上物でケイトン等で値段は十二圓位から十五六圓位まで、キットでモダン形の典型とも云ふべきフランス形（美錠靴）は新らしくアミアゲの樣で紐いらずの裝置がしてあり非常に便利で實用向きであるが値段は十四・五圓まで次に短靴は最近サッパリ需要者がなく需要者があつても大部分中年以上の人に用ひられる傾向がある。女學生用の指定靴は黑七・八圓で値段も昨年と大差なく（ゴム底の四、五圓　安物は一遍切りのせいか一体にすれ氣味で自然店頭を去るであらうと

# 選擧違反を特赦

### 平區裁判所で左記十名

## きのう聖旨傳達

平區裁判所管內に於て縣議ならびに衆議院選擧違反で罰金に處せられて居た左記十二名は御大典に際し特赦されることになつてゐたが十八日午後一時平區武田上席檢事は猪狩平署長立會の上聖旨の傳達を行つた

小野鶴松　大內抑壽　角田與平　本田初吉　高木要　菱沼佐太郎　中柴留次郎　小野塚金助　若老源次郎　菅野石次郎　郡司春喜　佐川波

### 湯本町の

## 金毘羅祭

### けふ人出數萬

石城郡名物として聞ねてゐる湯本町金毘羅神社例祭は今十九日より擧行されたが早くも停車場より同神社間の路傍一帶には各種の露店軒をつらね遠近よりの人出數萬に達し終日參詣の善男善女で大雜踏を極め所轄平署では多數の署員を派して取締に努めた

## 泉校落成式

### 二十日に開校式

泉村小學校增築は一萬五千餘圓にて中山組請負既に村當局に引渡したが同開校式を二十日擧行する筈にて同日は各種餘興あり盛賑を極めるのであろう小學校靑年の學藝會、主婦會、劍柔道會その他種々あると

## 養蠶同業協議

### 二十五日評議會を

石城郡養蠶同業組合評議員會は來る二十五日午前十時から平町元郡役所內に開會さるが昭和四年度豫算追加の件寄附採納追認の件等を協議すると

## 山田靑年幹部

山田村靑年幹部會は同村小學校に開催總集會を來月八日に講師に富田岩瀨農校長、作山、柴山の二氏を招待することに決定した

## 教育署員劍道

石城郡四倉警察署主催石城郡第四區小學校教員對四倉署員の對抗劍道大會は來る三月三日午前十時から四倉町小學校に於て開催する

## かみしばゐ

◆コチラは平放送局でございます、藝者の猛襲にヘキエキして客が逃げ出したお話◆サル宿屋に泊つたサル商人が、旅のつれ〲なるまゝサル藝者と情約締結して湯本山形屋へ連れ込んだ（サルと書いてもお客も藝者も人間なんで、名前を出さない處が記者の親切と知るべし◆流行らない藝者の男珍しさから、そのアトは晝はひねもす夜は夜もすがら宿屋につめかけてヤイノ〱とせめつける仕末に、今更惡女の深情にサスガの男もスッカリ降參して白旗をかゝげたものだ◆それでも敵は長驅追擊の手をもゆるめないので一目山隨德寺をきめこんで行衛不明となつたのはその藝者ばかりか宿屋まで無錢宿泊を驚いてると電報あり「シラベトニモッオクレ、カネオクル」で宿屋は安心、藝者は泣き顏。以上

---

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平[illegible]五〇七番

高級車貸切
開店披露
自動車御用ハ
電話三四三番（サシミ）
平驛前
昭和タクシー
澤正路

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
炊の便あり

息泰久儀病氣療養中の處去二月十一日午前七時半死去仕り候舊正月中に就き御通知を御遠慮申上去ル十三日神式に依り葬儀相營申候間此段辱知各位に御通知申上候
追而廿日祭の儀は來ル三月二日午後二時より自宅に於て相營申可候
二月十五日
平町四町目
磐城工業商會
父　中村佐治助